

# たまのよこやま



発行

財団法人 東京都生涯学習文化財団  
 東京都埋蔵文化財センター  
 〒206-0033  
 多摩市落合1-14-2  
 ☎ 042-373-5296

東京都埋蔵文化財センター報 No.57 平成15年3月8日 <http://www.tef.or.jp/maibun/>



▲ 赤坂・六本木地区 白線の中が遺跡（左：長門藩毛利家屋敷跡遺跡、右：宇和島藩伊達家屋敷跡遺跡）

## 東京再生と遺跡調査

六本木分室 伊藤 健

最近の東京は元気がありません。国際競争力が落ちているのです。そこで、政府は都市再生本部を設置して、日本の都市を活力に満ちあふれた都市に再生しようとしています。こうした流れを受け現在、東京のいろいろな街では古い建物が壊され、新しい街づくりが進められています。昨年話題になりました再開発中の汐留や建て替えられた丸ビルの賑わいは、都市再生の息吹と言えましょうか。

さて、上の写真は港区赤坂、六本木界隈の航空写真です。赤坂、六本木でも毎日再開発事業の工事の槌音が響き、街の風景が高層化に向けて日々変化しつつあります。いささか多様なイメージのあったこの街が、国際性に加えて文化・芸術都市の香りを加味しつつあります。

その赤坂、六本木では、六本木分室が長門藩毛利家屋敷跡遺跡を、乃木坂・乃木坂南分室が宇和島藩伊達家屋敷跡遺跡を調査しています。前者には民間事業による新しい街が、後者には第二国立美術館と政策研究大学院大学が建てられます。

埋蔵文化財センターではこれら以外にも、汐留地区（汐留遺跡）、IT関連産業拠点を目指す秋葉原の再開発事業（外神田四丁目遺跡）など、いくつもの再開発、街づくり事業のための遺跡調査を手がけています。また、汐留地区の事業では、鉄道関連遺構の調査成果を汲んでいただきまして、街のシンボルとなる明治時代の新橋駅駅舎の復元が進んでいます。私たちは、今後遺跡調査を通じて東京の都市再生のお手伝いをしていく所存です。

遺跡だより⑥5



長門藩毛利家屋敷跡遺跡

遺跡は、港区赤坂9丁目「防衛庁」の跡地にあります。大正時代末に鳥居龍藏博士によって縄文時代の貝塚遺跡として発見されました。現在まで、江戸時代の屋敷を中心に旧石器時代や縄文時代、弥生時代末から古墳時代初頭の遺構や遺物が検出されています。

この遺跡は、江戸時代の寛永十三年（一六三六）三月に毛利氏が徳川幕府より下屋敷として拝領し（当初二万七千二百七十三坪）、幕末の元治元年（一八六四）まで約二百三十年間居を構えていたところです。

毛利氏は、江戸時代に現在の山口県のはほ全域を治め、萩市にお城を構えました。上屋敷は現在の日比谷公園の北西側（桜田門寄り）にありました。また、当初、中屋敷は新橋四丁目

（愛宕山下）に、下屋敷は新橋六丁目の増上寺の北にありました。

遺跡のある檜町に隣接する麻布、赤坂界限は現在のにぎわいと違って、江戸時代の当初は江戸の街はずれに位置し、たぐさんの有名な大名屋敷の間に畑が点在する状態でした。

毛利家下屋敷は地名から「麻布屋敷」、あるいは檜が沢山植えられていたことから「檜屋敷」と呼ばれ、幕府要人や大名を招いたり、上屋敷の改修、火災で非難した場合などに藩主と家族が移り住んだという記録もあります。

江戸時代の遺構には、御殿や表門、長屋などの礎石や柱穴、通路を区画した溝と堀の柱穴、上水施設、井戸、



表門内側の土坑と柱穴

貯蔵用の土坑や地下室、石垣、石組溝と屋敷造成時の整地盤などが検出されました。



上水遺構と木柱

各種遺構から出土した遺物には、肥前、瀬戸・美濃、備前、堺や京焼系の陶磁器類、「二文字三ツ星」や「沢瀉」、「十六花弁菊紋」、「三葉葵」など家紋の入った瓦、金属製品や骨角製品などの装身具、漆器碗、ガラス製品、貝製品、土製の道具などがあります。



ガラス製の小盃

また、地元の萩古窯の陶器にみられる特徴に似た碗や鉢類などの陶器も出土しています。

さらに、屋敷の地鎮を行なった土坑一基が敷地のほぼ中央部にありました。この遺構は調査の途中ですが、隅丸長方形で東西方向に長く、規模は90

×60cmで、深さは遺物がでているところで約10cmあります。

今までに中から二枚一組の「かわらけ」（口径13cm、底径9cm、高さ2cm）七組と三枚一組が一組の計十七枚が配置され、その内外から「永楽通宝」の金銭が二枚と初期の「寛永通宝」が七枚、さらに、かわらけの下から銅製の「輪宝」一点が一緒に出土しています。

（小坂井副主任調査研究員）  
（田中調査研究員）



地鎮遺構の中に埋納された祭器



地鎮遺構の「永楽通宝」

柏木淀橋町遺跡

柏木淀橋町遺跡は、新宿区北新宿二丁目目の青梅街道北側に位置しています。遺跡の西側には神田川が流れていて、青梅街道と交差する場所には淀橋が架けられています。

この遺跡の主体は江戸時代の町屋跡です。町屋といっても日本橋や八丁堀などとは違って、江戸のはずれの街道沿いに発達した町屋でしたので、裏手は畑地になっていました。しかし、この畑地も明治三十年代以降になると急速に宅地化が進んでいきました。

文化財講座 <47>  
大江戸掘りもの帖 ~二十四~

『江戸名所図会』には、淀橋は近くの水路に設けられた水車小屋とともに「淀橋水車」として描かれています。

見つけた遺構は、江戸から明治時代のもので、建物の礎石や柱穴、胞衣埋納遺構、木樋、竹樋などがあります。街道沿いの一区画からは、播鉢を転用して火床とした鍛冶場の跡があり、この周囲からは鞆の羽口も見つかっています。街道沿いに鍛冶屋さんがあったものでしょうか。

また、遺跡の南西のかつて水車小屋があった場所の近くからは、大きな

石臼の破片が見つかっています。



鍛冶場の火床と鞆の羽口

この水車小屋では、幕末に黒船が来航したときには火薬の製造をしていて、爆発事故を起こしたそうです。

遺物の中には「淀橋町」と「へつ」の屋号が記された明治初期の徳利が出土しています。新宿歴史博物館所蔵の「柏木・角筈・目屏風」には明治初め頃のこの地域の様子が描かれていて、この徳利は米問屋の大和屋さんのものとわかりました。この屏風絵に描かれている大和屋さんの店の中には、酒樽が描かれており、酒屋も一緒に営んでいたことがわかります。

(小林裕副主任調査研究員)



町名と大和屋さんの屋号のある徳利

保存科学室(ぼれ話(二二))

初圧痕土器の痕跡考古学(下)

前号では、土器の表面に残されていた初圧痕からレブリカを作製し、電子顕微鏡で観察した所見をお話しし、今から約二千年前の初であったも現在のものと違わない形をしていることがわかりました。

最大長9.6mm、最大幅4.3mmの幾分大きめの初でした。そこで、さらに詳しく知るために位置や角度、倍率を変えて観察しました。図(1)は穂に付く側から、図(2)は芒側から、図(3)は図(2)の中央部を拡大して撮影したものです。前号の写真だけでも初であることはわかりましたが、観察位置を変えることで、さらに別の情報を得ることができました。

(1)では、初の右側に潰れた箇所のあることが明瞭になりました。(2)では、先端部にあった芒の部分が破

れて内側の玄米が顔を覗かせています。初は土器に紛れ込む前に、2箇所が潰れていたのです。小さな初粒が2箇所も偶然に潰れたとは考えられませんので、これは脱穀の際に出来たものと思われず。

したがって、この土器が作られたのは初を刈り取り脱穀も終わった後のことと判断されます。秋、脱穀のために用意された作業場は、土器作りのための作業場へと姿を変えたことでしょう。秋には燃料となる草木が容易に手に入りますので、冬に入る前に土器を作って焼いたのではないのでしょうか。(丑野 毅 東京大学 大学院総合文化研究科)



図(1)



図(2)



図(3)



初(稲学大成1)の構造より

文化財講演会

第四回は、11月30日(土) 東京大学名誉教授大貫良夫氏による「アンデス古代の神殿の発掘と修復」の講演を行いました。参加者は、96名でした。



大貫氏の講演風景

第五回は、1月15日(水) 当センター保存科学室門倉武夫氏による「土中文化財の保存と公開―虎塚古墳からみて―」の講演と、「虎塚古墳」を上映しました。参加者は、143名でした。

第六回は、2月12日(水) 当センター副主任調査研究員内野正氏による「江戸と国元―尾張藩上屋敷跡遺跡出土資料からみて―」の講演と、「新宿四谷今は昔」を上映しました。参加者は、175名でした。

平成15年度の展示と行事

企画展示「縄文章創期の世界―前田耕地遺跡を中心に―」国の重要文化財指定の石槍などを公開。

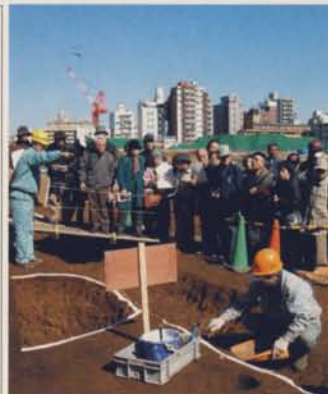
常設展示「多摩の三万年を訪ねて」行事(4月～8月)は次のとおりです。

日 時	行事名	申込み方法
5/10 (土) 10:00～14:00	土器の野焼き	遺跡庭園内 見学自由(無料)
6/14 (土) 10:00～12:00	勾玉作り	5/29までに往復はがきで申込み(有料)
6/14 (土) 13:00～16:00	火おこし体験、泥面作り、遺跡庭園の探索	5/29までに往復はがきで申込み(有料)
6/21 (土) 10:00～16:00	映画鑑賞会	午前:小学生対象 当日受付(無料) 午後:一般対象 当日受付(無料)
7/12 (土) 13:30～16:00	第1回文化財講演会	定員120名:当日受付(無料)
7/31 (木) 9:15～16:00		縄文土器製作と野焼きを全3日間で 参加費1,000円
8/1 (金) 9:15～16:00	縄文土器作り教室	小学5年生以上(保護者同伴)15組、一般20名
8/23 (土) 9:15～16:00		7/10までに往復はがきで申込み(多数の場合は抽選)

遺跡現地説明会

蓮根分室 12月24日(土) 志村第六小学校の先生と生徒を対象に現地説明会を行いました。参加者は113名でした。

東新宿分室 2月15日(土) 周辺の3町会と3小・中学校の方を対象に現地説明会を行いました。天候にも恵まれて参加者は小・中学生を含めて121名となりました。



新宿六丁目遺跡

安全衛生だより

11月7日(木)・8日(金) 東新宿・六本木・長房分室で、中央災害防止協会による安全診断を行いました。

東京都遺跡調査・研究発表会

1月19日(日) 三鷹市芸術文化センターにおいて、開催されました。

当センターからは、長房分室の並木仁副主任調査研究員が八王子市船田遺跡の調査成果を発表しました。

展示説明会

3月29日(土)

第1回 10時～11時  
第2回 13時30分～14時30分

平成15年度の展示を当センター調査研究員がわかりやすく説明いたします。春の一日、遺跡庭園の散策を兼ねてのご来所をお待ちしています。(入場無料)

分室の開設

次の分室が開設され、現在、合計21分室で発掘調査・整理作業を行っています。

- 東伏見分室 千葉基次係長 小松真名
- 清水ヶ丘分室 可児通宏係長 岩橋陽一
- 若葉台分室 可児通宏係長 竹田均
- 堀之内分室 可児通宏係長 竹花宏之
- 元八王子分室 比田井民子係長 今井恵昭 松井和浩
- 府中南分室 比田井民子係長 武井利道



古紙100%配合の再生紙を使用しています。